

学位論文審査の結果の要旨

1. 申請者氏名	岡部 友峻
2. 審査委員	主査：（兵庫教育大学 教授） 伊藤 大輔 副主査：（鳴門教育大学 准教授） 古川 洋和 委員：（兵庫教育大学 教授） 市井 雅哉 委員：（兵庫教育大学 准教授） 佐田久 真貴 委員：（兵庫教育大学 准教授） 池田 浩之
3. 論文題目	制御できない性的行動の実態解明と維持・増悪プロセスに関わる心理的要因の検討
4. 審査結果の要旨	<p>学校教育実践学専攻学校教育臨床連合講座 岡部友峻 から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。</p> <p>論文審査日時：令和7年2月12日（水） 9時00分～10時30分 場 所：オンライン</p> <p>1. 学位論文の構成と概要</p> <p>(1) 構成</p> <p>第1章 制御できない性的行動に関する研究動向 第2章 制御できない性的行動を測定する尺度の開発 第3章 制御できない性的行動の実態解明 第4章 制御できない性的行動に対して心理的要因が及ぼす影響性の検討 第5章 制御できない性的行動に対して心理的要因が及ぼす影響性の調整効果の検討 第6章 総合考察</p> <p>(2) 概要</p> <p>本研究の目的は、制御できない性的行動の実態解明を行うとともに、その維持・増悪プロセスに関わる心理的要因について検討することであった。</p> <p>第1章では、制御できない性的行動に関する先行研究の動向について概観し、課題点を整理した。</p> <p>第2章では、制御できない性的行動を測定する自己報告式尺度として、Compulsive sexual Behavior Disorder Scale-19の日本語版が作成され、信頼性と妥当性が確認された。</p> <p>第3章では、潜在プロファイル分析を用いて、強迫的性行動症を抱えるリスクの高い個人が2.5%で存在することを特定した。また、日本、韓国、英国を対象に調査を行った結果、本邦の実態は諸外国と同様であることが確認された。</p> <p>第4章では、心理的要因として、性的行動の機能と感情制御困難性が社会的要因および生物学的要因を統制したうえでも制御できない性的行動に影響を与えるかを検討した結果、臨床心理学的支援が制御できない性的行動の改善効果をもたらす可能性が示された。さらに、制御できない性的行動と性的行動の機能の関係を感情制御困難性が調整するかを検討した結果、負の強化としての機能を有する性的行動が制御できない性的行動に与える影響性は、感情制御困難性によって調整されることが示された。</p> <p>第5章では、本研究で得られた成果を取りまとめ、臨床的意義について考察した。</p>

2. 審査経過

(1) 審査概要

岡部氏の論文概要についての口頭発表が行われ、各審査委員から論文内容についての質疑、それらへの岡部氏の応答を経て、審査委員会による審査が行われた。

(2) 学位論文の独創性と発展性について

本論文は、新たに定義された強迫的性行動症に関する先駆けとしての研究として位置付けられる。特に、本邦においても制御できない性的行動を客観的な基準に基づいて評価可能な測定ツールが整備されたことで、効果的な支援を提供するために必要な実証的な研究知見の蓄積が可能となり、今後の研究領域の発展に寄与する。さらに、本邦における強迫的性行動症に対する支援の必要性とともに、感情制御方略に着目した心理的支援の有用性についてデータに基づいて実証的に明らかにした点が独創的である。

(3) 学校教育の実践への貢献あるいは社会的貢献

本論文における強迫的性行動症に関する知見は、医療領域におけるアセスメントや支援に関する臨床応用のみならず、学校現場における性教育などへの知見として活かすことができる。

3. 審査結果

以上により、本審査委員会は 岡部友峻 の提出した学位論文が博士（学校教育学）の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。